

ふなどころ阿南まちづくり協

中学2年
対象に

次世代船員育成事業実施

キャリア教育 出前授業と貨物船見学会

ふなどころ阿南まちづくり協議会(徳島県阿南市)は次世代船員育成事業として、小松島市立小松島南中学校2年生を対象に3月14日と4月5日の両日、それぞれキャリア教育の出前授業および貨物船の見学会を実施した。

3月14日に実施したキャリア教育の出前授業では、最初に「貨物船の役割について・海上技術短大進学予定者の話・船長さんの話」をテーマに佐野海運の佐野寛史社長が「船はトラックや飛行機、貨物列車と比べて、大きなものを一度に大量に運べるという特徴があり、輸送コストが安い利点がある」などスライドを使って説明した。

3月14日に実施したキャリア教育の出前授業では、最初に「貨物船の役割について・海上技術短大進学予定者の話・船長さんの話」をテーマに佐野海運の佐野寛史社長が「船はトラックや飛行機、貨物列車と比べて、大きなものを一度に大量に運べるという特徴があり、輸送コストが安い利点がある」などスライドを使って説明した。

次に、今春から海上技術短期大学に進学する高校卒業生が航海士を目指す動機や自身の高校生活について話した。

最後に、貨物船の現役船長である天羽全氏が自身の体験を踏まえて海の仕事の魅力や航海士としてのやりがいについて詳しく語り、その後中学生の質問に答えた。

同協議会によると、参加した中学生は、貨物船についてはほとんど知らず、わが国の産業を支えている内航船の役割を初めて知った生徒が多かったという。また、生徒からは質問が活発に出され、内航船の仕事に興味を持った生徒が増えたと感じたという。

4月5日に小松島港で実施した貨物船見学会では、小松島市立小松島南中学校の生徒とその保護者と教員など計45人が参加。①ブリッジ・船内②機関場③オモテ・艀内―を小学生とその保護者が2班に分けて協議会メンバーが引率して見学し、船の大きさに驚きを隠せない様子だったようだ。

見学時の注意事項などの説明後、協議会メンバーが3つに分かれた班を引率し船内を案内。児童も保護者も最新設備の貨物船を見学し、引率者や乗組員の話を熱心に聞き、質問をして貨物船や船員の仕事に理解を深めた。

次に、小学校教員14人を2班に分けて協議会メン

ンバーが引率して見学。貨物船をはじめて見学した教員ばかりで、実物を見て船への理解が深まったようだ。

最後に、中学生10人とその保護者が見学した。中学生は真剣な表情で話を聞き、質問もたくさんしていたという。



キャリア教育出前授業の様子



貨物船見学会の様子